

第24回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成22年10月8日(金) 午後1時40分～午後3時30分
開催場所	滝川市役所2階201会議室
出席状況	【委員】 出席：岩本委員長、石井副委員長、小野委員、奥村委員、加藤委員、中村委員、水戸委員 欠席：伊藤委員、木村委員、久保田委員 【滝川市】 市民生活部 西村部長、伊藤次長 〃 暮らし支援課 橋本主査、小笠原主事
議事内容	1 開会 2 年次報告書の作成及び公表について 市が前年度の取組や数値目標の達成状況等について報告を行うこととしている年次報告書案【資料2】について、説明を行った。 3 21年度の取り組みに対する評価報告書の作成に向けて 4 基本計画の見直しについて 21年度の評価を行うに当たっての材料として、先ほどの年次報告書による21年度の取組内容の情報提供と合わせて、計画期間開始からこれまでの主な取組や委員会からいただいた評価・提言等の推移などをまとめた経過等について、事務局から資料3をもとに、説明を行った。 また、来年度から環境基本計画が計画期間の後半期間に入ることから、必要に応じて5年をめどに見直しを行うこととすることとしており、このことについても、資料3を交えながら説明するとともに、現状の数値目標についての課題点などをまとめた資料4に基づき、説明を行った。 説明後、2～4についてまとめて質疑応答、意見交換を行った。 ○21年度のごみ排出量が前年度より増加したという結果になったが、この原因について家庭系と事業系でいずれかが増えたのかといった分析はされているのか？ →内訳に関して手元に数字がないので、後で調べて報告する。 ※その後、データを調べた結果、年次報告書に記載した排出量やリサイクル率等のデータについて一部誤りがあったことが判明したことから、これについては修正し、改めて報告することとした。 ○このデータのまとめ方で、例えば一人あたりのごみ排出量などは、事業系なども合算された形になっているので、一般市民が家庭から出すごみを減らそうと努力し結果を出したとしても、事業系が増えればその成果が見えてこない場合もありうる。そういった形がみえるような指標のあり方も考えてみるべきではないか。例えば、家庭系のみの排出量を人口で割った値を一人あたりの排出量として出すといった形もあって良いのではないか。 ○ごみの排出量の最終目標値の750グラムを達成するために、市で採りうる施策として、例えばごみ料金の改定や分別種目の増など、直接的な手法もあると思うが、これらについては様々な要因から、実際にはなかなか難しい面があると思う。それで

あれば、それ以外のもっと着手しやすいような削減に向けたアプローチの努力を本当にしてきたのか？そういった努力なしに目標が高すぎるといって安易に目標自体を下げるというのはどうなのか。それよりも、これまではどういったことをしてきたのか、そしてこれからどうしていくのかといった前向きな議論をしていくことが適当ではないか。

○省エネモニターの結果について、電力使用量が前年よりも若干、増加したという結果になったが、これは継続的に取り組んできている世帯がほとんどということで、仕方ない部分もあるのかと思うが、協力してもらっているモニター世帯数を増やしていき、広く参加してもらうことも大事ではないか。新規モニターの開拓にもっと力をいれるべきではないかと思う。

○省エネモニターについては、参加者が楽しめるような要素や達成感を感じられるような要素、例えば一番削減できた人を表彰するとか、公表するだとかの仕組みをいれこんでやるなどの工夫が必要である。

○その意味では、環境学習リーダーの養成についても、単純に講座を受けてもらって終わりではなく、講座を受けた人には続けて受けてもらえるように、ポイント付与やハンコが溜まっていくなどの仕組みを作っていくなど、楽しんでもらえるような工夫も必要ではないか。

○省エネモニターの検証対象となっている数値は電力使用量そのものを使っていると思うが、ここの目標値の定義がCO₂排出量ということであれば、CO₂排出量に換算して津使うべきではないか。21年度の北海道電力の排出係数は泊原発の稼働開始などもあって、相当に改善されており、ここもCO₂排出量ではかなり減っていると考えられる。また、このまま電力のみを対象ということで続けていけば、例えば途中でオール電化にした世帯が入ってくると、一気に増加ということになるので、やはりガスや灯油などを含めてエネルギー全般を対象にしていくことを考えていく必要があるのではないか。

→先ほどの新規開拓をもっと積極的に行うべきという意見とも関連して、当初はなるべく多くの人に参加してもらうことに主眼を置いてモニターの仕組みを考え、電力のみということで実施してきたが、今後は少し、あり方を改めていくことも必要かも知れない。

○資料に数値目標の課題点などが列記されているが、今回の見直しについてはどういったレベルでの見直しを考えているのか？

→元々の計画自体の方向性だとかそういった基本的な枠組みの見直しの必要性があるのかないのかを含めて議論をいただければと考えている。仮に、基本的方向性は良いとした場合に、例えば、それを実現していくための一つのツールとしての数値目標の設定のあり方などは議論の対象になってくる可能性はあると考え、このような資料を例示させていただいた。

○北海道が「北海道循環型社会形成推進基本計画」、「北海道地球温暖化対策推進計画」、「北海道生物多様性保全計画」を策定したところだが、それらを受けて見直しといったこともあるのか？

→これらの道の計画の内容について詳しく確認していないが、これらが滝川市の計画に影響する部分があれば、修正していかなければならないので、そのあたりは確認しておきたい。

○数値目標の見直しについては、目標自体の見直しということの前に、もっといろんなことをやってみることも必要ではないか。

○省エネモニターなども、電気だけでなく、次の段階への移行ということで、ガスや灯油などに広げていくことが必要ではないか。消費者協会でも環境家計簿としてそういったものを総合的に取り組んできているので、一緒に出来る部分があるかも知れない。

○企業単位であれば、省エネ法の関係でそういったデータは把握しているはずなので、そういった対象も巻き込んでいくことも考えられる。

○こういった取組が市の担当者だけが動いても限界があるので、ネットワークづくりなどを進めていくことで、一気に情報を拡大できるような仕組みも必要である。

4 その他

- ・「たきかわエコ・エネスクール」の開催について説明を行った。
 - ・バスの利用を促進するため、現在実施中の市と中央バスの実証事業について説明を行った。
- (いずれも添付資料参照)

5 閉会